

平成29年度横浜市福祉調整委員会会議録	
開催日時	平成30年3月9日（金）17時から18時00分まで
開催場所	福祉調整委員会室（関内中央ビル5階）
出席者	伊丹代表、梅田委員、小山委員、小林委員、杉山委員、山口委員（五十音順） 健康福祉局：斉藤副局長 事務局：健康福祉局 相談調整課 小林課長、脇担当係長、職員2名
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者なし）
議題	平成29年度申立て案件の振り返りについて
決定事項	なし
議事	<p>（事務局）定刻になりましたので、ただ今より、平成29年度横浜市福祉調整委員会を開会させていただきます。本日司会進行を務めさせていただきます、健康福祉局総務部相談調整課長の小林でございます。よろしくお申し上げます。</p> <p>当委員会の会議の公開について、ご説明申し上げます。</p> <p>当委員会の会議は「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に基づきまして公開されております。なお、個人に関する情報等の非公開事項に係るとき、及び会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営が著しく阻害されると認められる場合については、当委員会の決定により、会議の全部及び一部を公開しないことができることになっております。</p> <p>会議録につきましても原則公開とさせていただきます。</p> <p>この会議録につきましては、事務局で作成いたしましたものをそれぞれ各委員の方々にご確認をいただいた上で公表することになっております。</p> <p>本日傍聴につきましては、申し込みはございませんでした。それでは会議に先立ちまして横浜市健康福祉局副局長の斉藤がご挨拶をさせていただきます。</p> <p>《斉藤副局長挨拶》</p> <p>大変申し訳ありませんが、議会開会中のため、斉藤はここで退席させていただきます。</p> <p>本日配布をさせていただきます資料について確認させていただきます。まず、一番上に次第があります。それから平成29年度の申し立て案件振り返り冊子です。次に、本日の会議の議長でございますが、横浜市福祉調整委員会運営要綱第8条の規定により、議長は、伊丹代表委員をお願いいたします。それでは以降の議事進行を伊丹代表委員をお願いいたします。</p> <p>（伊丹委員）それでは、私、伊丹が議事進行を務めさせていただきます。</p> <p>会議の定足数は委員数6名の過半数です。出席は6名で定足数に達しておりますので、これより会議に入らせていただきます。</p> <p>まず、平成29年度の業務実績報告を事務局よりお願いします。</p> <p>《パワーポイントで29年度業務実績報告について説明》</p>

(伊丹委員) 概要の説明をいただきました。ご意見はいかがでしょうか。

ないようですので、引き続き平成29年度申立案件の振り返りを行います。資料に基づき申立案件の概要をひととおり事務局から説明していただき、そのあと皆様からご意見を頂きたいと思います。

《パワーポイントと資料で事例 No. 1 の概要を説明》

(伊丹委員) ご質問またはご意見はいかがでしょうか。

(小山委員) 少し時間がたってみて改めていかがですか？

(小林委員) 組織側の課題に深めていくところが難しかった、組織的対応として検討する事がもっとあるかとも思われるが、まだ整理できていない。今回の意見交換会でこの様なケースの材料を扱っていただいたので、その事を積み上げていくと組織的対応の課題が整理しやすくなるのではと感じました。

(伊丹委員) それでは次にお願いします。

《パワーポイントと資料で事例 No. 2 の概要を説明》

(小山委員) お母様を見送ったつらさが苦情に転換されているのではないのでしょうか。

(伊丹委員) このように熱がある場合は延命治療を希望するかしないかにかかわらず関係者の判断で病院へ連れて行くことはあります。ただ、申立人はもう危ないから連れて行かないで見ていたいと言ったとのこと、この辺の意見の相違は致し方ない。

(小山委員) 施設は激しいやり取りをしたとの認識はなかったが申立人はあったと言う、ずれがあるのでしょうか。

(伊丹委員) 申立人から（面談時に）その様に言われたので、激しいやり取りがあったのかと思ったのですが、実際は（そこまででは）なかったようで、それなりに、その時その時で終わっていたようです。（申立人は）頻回に施設を訪問し職員とも話し合っていたとの事です。

また申立人から具体的に職員名をあげて母に不適切な介護をした、と話がありましたが、それについては、記録からはその根拠は見当たらなかった、としか言えませんでした。

(小山委員) No. 1 の方もそうですが、身内に対する特別な思い入れというのはありうることで、この様な場合、施設がしておいた方が良い事や対応は何かないでしょうか？

(伊丹委員) 施設とかなりやり取りがされていることもあり、そのうえでさらに（何か方法）というものはあるだろうか。

(事務局) No. 1 のケースは施設が頑張るだけ頑張って「できること、できないこと」をきちんと伝えられず、どうしようもなくなってしまった。No. 2 のケースは施設側にトラブルになっている感覚がなかった。高齢者で認知症等があるとご本人のご意向を確認しにくい、ご家族のご要望に出来るだけ対応していくことになる、そこに難しさがある。

	<p>(小山委員) 利用者側・施設側の「つもり」のずれはよくあること。申立人にとって「延命治療」という言葉は何を意味しているかを、施設側がくみ取れているのか? 限界はありますが、そのような事に注意深くなる必要がある、予防的な意味からも行っていったほうが良いと思う。</p> <p>陰部の腫脹や骨折は何ら問題はなかったとの事です。</p> <p>(事務局) 施設側も調査し、介護に携わった職員に確認(ケア方法等)しても原因は分からなかった、ただ、再度骨折が無い様にタオルトランスに変えるなど対策はとったとの事でした。</p> <p>(小林委員) 事業所ごとに力量の差があり、苦情対応に馴れていない事業所がある。事業所が勉強したり、スキルアップをはかることに関して、市や調整委員会ができること、何か役割が果たせないかと思った。No.1の件で、窓口になった職員が主に1人で(苦情等の)対応していて組織的ではなかったことが気になったので。</p> <p>(伊丹委員) 他にご意見がないようでしたら、これで平成29年度福祉調整委員会公開会議を終了いたします。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>1 資料  (1) 平成29年度横浜市福祉調整委員会 次第  (2) 平成29年度申立案件振り返り</p> <p>2 特記事項  なし</p>